

ポルトガルと枚方をつなぐ友好の証に 万博レガシーのロープと淀川のヨシ糸を活用したワークショップ

市は、令和8年3月8日（日）にグランフロント大阪、3月28日（土）に天野川堤防で、大阪・関西万博のポルトガルパビリオンで使用後に市へ寄贈されたロープと、枚方を流れる淀川に自生するヨシから生成したヨシ糸を織り交ぜて「マクラメタペストリー」を制作するワークショップを開催する。万博をきっかけにつながったポルトガルとの友好の証として、市民などから広く参加者を募集する。

ポルトガルパビリオンでは、約1万本のロープのほか、リサイクル漁網やサステナブルな素材が使われ、海洋保護や環境保全など持続可能な未来に向けた展示・体験を提供し、人気を博した。また、枚方の地域資源であるヨシ糸は、現代では使われなくなったヨシを再利用したもので、CO₂やリン、窒素を吸収するサステナブルな繊維。それらの素材を組み合わせる作品には、ポルトガルと枚方が目指す持続可能な未来社会への貢献と、両国の今後のさらなる交流と発展への期待が込められている。

市の担当者は「ポルトガルのロープと淀川のヨシ糸が組み合わさって新たな万博レガシーに生まれ変わり、多くの人の手元で残り続けてほしい。万博に行った人も、行けなかった人も、改めて万博の意義を振り返ってもらえれば」と期待する。

★ワークショップ概要

【内 容】ポルトガルのロープと淀川のヨシ糸を織り交ぜて、縦20cm×横10cm程度の「マクラメタペストリー（写真）」を制作。「マクラメ」とは紐や糸を手で編み、結び目を作ることで模様を生み出していく技法。語源はアラビア語の「ムクラム」で、「交差して結ぶ」という意味がある。

【費 用】参加費 500円/人

【所要時間】30分程度

【日時など】①アフター万博「みらい創造展」（主催：関西みらい銀行）

3月8日（日）午前10時、11時30分、午後1時、2時30分、
4時（計5回）

グランフロント大阪 北館 ナレッジキャピタル2階「The Lab.」
（大阪市北区大深町3-1）

②桜まつり（主催：枚方ローズライオンズクラブ）

3月28日（土）午前10時、11時、正午、午後1時、2時（計5回）
天野川堤防（枚方市禁野本町1丁目 天津橋付近）

【申 込】市ホームページ（右記コード）でお申し込みを。

※事前申込者優先。空きがあれば当日参加可。複数回参加不可。

【定 員】先着①各6人②各4人



★協力事業者

ワークショップに協力いただく株式会社アトリエ May (所在地: 枚方市津田山手) は、古来から日本に自生するヨシを使い、CO₂やリン、窒素を吸収するサステナブルな繊維「ヨシ糸」を素材として活用し、新たな商品を生み出すことで、地域の環境保全や文化継承に取り組んでいる。

※株式会社アトリエ May ホームページ (右記コード)



★ロープ寄贈の経過

令和7年10月16日(木)、ポルトガルパビリオンのベルナルド・アマラル館長が市に来訪し、ロープの寄贈を受けた。

寄贈されたのは、パビリオンの装飾に使用されていたロープ計10本。アマラル館長は日本とポルトガルが500年前から交流があることに触れた上で「万博が終わって寂しさもあったが、パビリオンの一部が枚方に残ることがうれしい。万博で過ごした大切な時間を思い出してもらうとともに、枚方とポルトガルがつながるきっかけになれば」と語った。伏見市長はアマラル館長に感謝状を手渡し、「万博の理念を継承し、地域の未来を共に創っていくことを心から願っている」と話した。



ポルトガルパビリオン外観
建築家・隈研吾氏が設計
テーマは「海洋：青の対話」
(提供: AICEP & Portugal Pavilion)



贈呈式でロープを手にする
アマラル館長と伏見市長



寄贈されたロープ
長さ140cm~90cm、計10本

<お問い合わせ>

総合政策部 政策推進課

Tel072-841-1149 Fax072-841-3039

Mail seisakusuisin@city.hirakata.osaka.jp